

## ごあいさつ

本田技研工業株式会社 取締役専務執行役員  
安全運転普及本部本部長

### 大山 龍寛



日頃からHondaの安全運転普及活動に多大なるご理解、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。お陰様で本年も様々な分野において安全運転普及活動を展開することができました。この場をお借りし、改めまして御礼を申し上げます。

昨年中の交通事故死者数は11年連続での減少となる4612人、本年は昨年をさらに上回るペースで着実に減少しております。これは交通安全に関わる官民はもとより、交通社会に参加する一人ひとりの努力の成果であり大変喜ばしいことと思います。

一方で、昨年よりスタートした第9次交通安全基本5カ年計画で掲げる「平成27年までに24時間死者3000人以下、死傷者数70万人以下にする」というチャレンジングな目標を達成するためには、これまでも増して「人」の意識と行動変容、「車両」の安全技術の進化と普及がより一層重要になってくると考えています。

Hondaは「環境」と「安全」を最重要課題ととらえ企業活動に取り組んでいます。CO<sub>2</sub>の大幅低減に向けた取り組みや、「車両」の安全技術をさらに進化させ、いち早くクルマやバイクに搭載し、お客様に提供することはもちろん、クルマやバイクに乗っている人のみならず、歩行者、自転車利用者など交通社会に参加するすべての人の安全を追求し、共存安全による「事故ゼロのモビリティ社会」の実現をめざしています。その実現のために、安全技術の「テクノロジー」、安全情報の「コミュニケーション」、交通安全教育領域の「ヒト」の三本柱で展開を行っています。

「テクノロジー」では、「ぶつからないクルマをより多くのドライバーに」をコンセプトに追突や歩行者衝突回避の可能性を高めたプリクラッシュセーフティ技術

や、衝突リスクに近づかないようにクルマをさらに知能化して他車の動きを自動で予測・判断する運転誘導支援、さらには隠れた危険などにも対応するため車車間、路車間通信を活用したITS技術などの研究・開発にも積極的に取り組んでいます。また、四輪・二輪メーカーである強みを活かし、クルマ側がバイクを守る技術の研究・開発にも取り組んでいます。

「コミュニケーション」では、昨年東日本大震災直後に、カーナビのプロープ情報が通行できる道路をいち早く社会に提供し、救援作業に貢献したように、「人・クルマ・世界がつながる機能」で安全を進化させ、地域の人々と一緒に作り上げる交通安全のコミュニケーションの輪を拡げていきたいと考えています。

「ヒト」へは、ここ数年強力に進めてきました地域に根ざした交通安全教育を、Hondaの二輪・四輪販売会社のスタッフや交通教育センターはもちろん、各地の交通指導員や協力会社のインストラクター、教習所の皆様など多くの人々と連携し、交通安全思想の普及に向けた活動を継続して参ります。また、シミュレーション技術を活用したツールや身体に障がいのある方の移動を支援する教育プログラムの開発・提供など、先進性・独自性のある取り組みにもチャレンジして参ります。

今後もHondaは、すべての交通参加者が安全で事故に遭わない社会をめざし、その実現に向けて、「テクノロジー」、「コミュニケーション」、「ヒト」の3つの領域でそれぞれをさらに高めると同時に互いに協調させながら、取り組みを一層強化して参ります。

最後に、皆様の益々のご健勝とご発展をお祈りするとともに、Hondaへの変わらぬご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。